

### 目次:

じこてんのコツ 1

日本のじこてん、  
世界のじこてん 6

じこてんにゆーす！ 8

編集後記

## 特集 じこてんのコツ

### — よい“じこてん”の作り方

### 継続的な改善で、「信頼される大学」であり続けるために

2008年度の自己点検・評価報告書のご作成、お疲れ様でした。

自己点検・評価は、学校教育法に基づき本学学則の定めにより実施されていますが、その目的は「自己点検・評価の基本方針」に、①自らの活動を振り返ることで、改善・改革の手がかりを見出し、その結果を年度計画や予算策定に役立てること②社会に本学の現状や今後の方針を公表することによって外部から評価を受け、社会に対してもその存在価値をしっかりと示すことにあります。

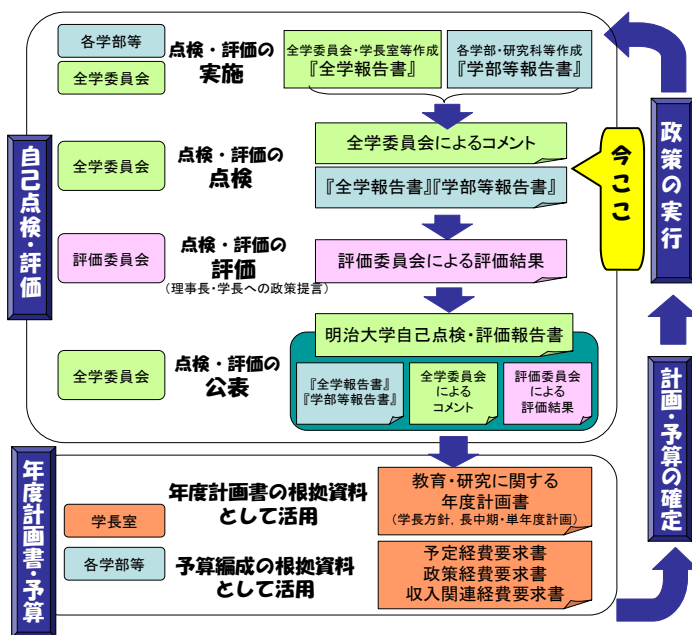
つまりじこてんは、その結果を年度計画や予算策定へフィードバックすることで、教育、研究、社会サービスの改善を実現していく“道具”なのです。この道具をうまく使えと、本学の理念に沿った諸活動を行うことができるようになり、結果として、学生の満足度が向上し、ご父母の方の期待に応え、さらに企業や地域など社会に信頼される、活力ある大学であり続けることができます。

ただ、活用できる自己点検・評価にするには、評価に関するちょっとしたテクニックを学ぶことが必要です。そこで今号では、すぐに使える！「自己点検・評価報告書の書き方のコツ」をご紹介します。

自己点と予算策定・年度計画は、つながっているよ。おさらいしてね！



### 自己点検・評価と年度計画書・予算 (PDCAサイクル)



2009年10月現在、全学委員によるコメントを作成中です。今後は、今年中に評価委員会で評価結果をとりまとめ、その後全学委員会にて2008年度自己点検・評価報告書を承認・公表する予定です。

# じこてん6つのコツ

## じこてん第2号

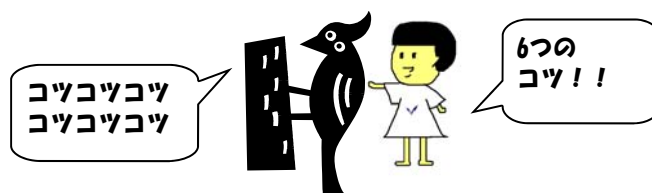
### 簡単にはじめる自己点検の改善

実際に点検・評価をはじめると、何か難しいですよ。何が難しいのでしょうか。

現状の問題点や改善すべき事柄がわかっている、自己点検・評価報告書の書式に当てはめて記述しようとする、的確に表現するのが難しかったり、正しく意図を伝えることが難しいと感じてしまうかもしれません。まだ、漠然と問題意識は持っていますが、数値やデータなど明確な根拠を示していないため、はっきりした問題点として認識したり、改善すべき項目や目標となる値を立てづらかったりすることもあるかもしれません。

これから皆様にご作成いただいた「2008年度自

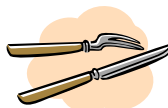
己点検・評価報告書」の中から、**的確な表現で記述していただいたものを例としてをご紹介します。**もし、あなたの所属機関でここに記載する例と同じような問題点があった場合、記述方法だけでなく、「改善方策」の具体的手法についても参考にすることができるのではないでしょうか？これからじこてん作成のためのコツを6個、をご紹介します。



### ★コツ1★ナイフとフォークの話～計画（目標）に基づく評価

食事のとき、洋食ならナイフとフォークを使いますね。“自己点検＝評価”を行うときにも、道具が必要です。必要なツールを用意しましょう。ツールは「ナイフ」と「フォーク」のように二つあります。

一つは、「計画（目標、目標値）」、二つめに「実績（結果、実績値）」です。



「評価する」とは、「計画と実績、二つの情報を比較する」とも言えます。比較することで、今年の活動は効果的であったか、適切であったか、改善点は何か等、評価を行うことができます。

「ナイフとフォーク」、これからこの二つをどのように使うのかを、順番に見ていくことにしましょう。

### ★コツ2★目標を設定しましょう

さて、ここからは本題。よいじこてん作成のための具体策です。最初は、目標の設定から。

目標は組織として目指し続ける長中期目標のほか、**具体的な短期目標の設定も心がけましょう。**短期目標は長中期目標にいたるロードマップとなり、達成度や問題点の把握などがしやすくなります。では、具体的な目標の立て方にはどんな方法があるのでしょうか？以下の二つの方法をご紹介します。

#### (1)前年度の自己点検・評価報告書を読み返す。

コツ1の「ナイフ」の使い方です。PDCAサイクルの中でC(前年度の自己点検)からA(次年度へのフィードバックの流れ)になります。前年度「改善方策」に記述したことがどの程度実行できたか？当該項目に関する改善が完了したか？という視点で点

検しましょう。達成できていれば更なる改善を目指した目標設定を、未達成であれば引き続き具体的方策に基づき目標を設定することができます。

<模範例>(理工学部2007年度自己点検・評価報告書4ページより抜粋)

(改善方策)(1)総合文化ゼミナールにおいては、総合文化教室において集中審議し、理念の確認や制限の撤廃などを含め2010年に予定している全体のカリキュラム改定にあわせて提案することに決まった。

(理工学部2008年度自己点検・評価報告書6ページより抜粋)

(改善方策)●(1)総合文化ゼミナールについては、総合文化教室において審議し、上限を25名とした。また、専任教員へ総合文化ゼミナールの担当をするようにアナウンスする。

## じこてん第2号

### ●じこてんちゃんのコメント●

1年で検討が進んだ様子がわかりますね。更なる改善についての具体案を、「改善方策」に記述すると次年度もこれと比較して達成度を測ることができます。

### (2)当年度の「教育・研究に関する年度計画書」を参照してみる。

コツ1で紹介した「フォーク」も使いましょう。

教育・研究年度計画書に「計画」として記載したことを具体的目標とし、達成度という視点で点検してみましょ。

<模範例>(国際日本学部2008年度「教育・研究年度計画書」単年度計画4ページより抜粋)  
「政策的計画15 留学生受け入れ推進

世界各国から多くの外国人留学生を積極的に受け入れ、21世紀の文化交流・国際交流の発展をになう知日派のリーダーを養成していく。具体的には、40名程度の外国人留学生を受け入れ、「国際日本学部」を拠点とした多文化共生キャンパスを創設していく。」

## ★コツ3★点検の大まかな流れを念頭に置きましょう

必須項目について、空欄であったり、記述が簡潔すぎたりといったケースが見られました。必須項目は、各機関が必ずチェックしなければならない箇所ですので、記述内容を確認しましょう。

点検の大まかな流れは(1)現状認識→(2)長所の把握と問題点の把握→(3)改善方策の策定です。多く見受けられたのは、①現状把握だけで問題点の指摘がない ②現状の記入欄に問題点まで記述されている、あるいは問題点の欄に改善方策の根拠が記述されているといった書き方でした。①の場合、問題点が解決している、または目標が達成されている場合はいいのですが、そうでないときは「自己点検」になっていません。また、②の場合は、問題点の叙述があいまいになってしまうため、具体的な改善方策に反映させにくくなってしまいます。はっきりした問題点の把握のため、現状と問題点は分けて記述しましょう。

<模範例>(農学部39ページ「8教員組織」より



(2008年度自己点検・評価報告書14ページ「3 教育内容・方法等」より抜粋)

「社会人学生、外国人留学生への教育上の配慮に関する目的・目標:

21世紀の文化交流・国際交流の発展を担う知日派のリーダーを養成すると共に、相互交流を通じた日本人学生の国際化を促進するため、世界各国から多くの外国人留学生を積極的に受け入れることにしており、そのために外国人留学生に対する学業・生活両面での支援体制を整えていく。」

### ●じこてんちゃんのコメント●

年度計画書に記載された“計画”と“目標”がうまくリンクしてますね。

政策的計画には具体的な受け入れ人数も明記されていますので、これを自己点検の“目標”としてうたと、より具体的なPDCAサイクルが構築できることと思います。

抜粋)

(現状)農学部78人中、女性教員は6名である。

(問題点)女性専任教員を各学科間で調整しながら10名程度に増員したい。現在、学部全体に所属する女子学生の比率は4割程度である。

### ●じこてんちゃんのコメント●

⇒アンダーラインの部分は、“今後したいこと”ですから、改善方策ですね。「女性専任教員を4名程度増員すべく、…に取り組む」というように「改善方策」欄に記述すると、目標値と改善手段を具体的に提示することになってわかりやすいです。研究者志向の女子学生を増やす方策等も考えると、より有効かも知れませんよ。

⇒すると問題点は・・・女子学生の比率に対して女性教員が少ないこと、でしょうか。



# じこてん6つのコツ

じこてん第2号

## ★コツ4★改善方策は具体的に書きましょう。

問題点に対する改善方策は、

- ・「いつまでに」解決するのか
- ・「どの組織体」で
- ・「何を、どのように」改善し、
- ・「最終的にどうなるのか」を明示しましょう。

＜模範例＞（文学部7ページ、「3 教育内容・方法等」より抜粋）

（改善方策）カリキュラム改革への具体的案を提示して、新学科・専攻設置の検討も視野に入れて、ワーキンググループで検討した。当初、2009年度の実施を目標としていたが、さらに個別的な課題を解決する必要が生じたため、2011年度実施に向けて検討中である。

### ●じこてんちゃんのコメント●

「実施時期」や「検討する組織体」が明示されている良い例ですね。特に目標年度があれば、そこから逆算して課題を解決していくことができますね。

＜模範例＞（政治経済学部13ページ・経営学部11ページ「3 教育内容・方法等」より抜粋）  
（改善方策）…2009年度の実施では、入学前補習授業について、習得段階別にクラス分けを行う。2010年度から、補習授業の科目に国語を加える。そのための講師任用計画を年度計画で定める。入学手続き者に対して学部教育の入門書の購読を義務づける。そのための入門書を、高大連携委員会で検討する。

### ●じこてんちゃんのコメント●

問題点を段階的に解決していく流れと問題解決のための検討組織体が明示されている、PDCAサイクルを文章化した良い例ですね。「年度計画で定める」と記述した項目は、2010年度の教育・研究年度計画書に反映させましょう。

## ★コツ5★数値や各種データを根拠にしましょう。

各種データを利用すると、数値的な達成度を明快に提示でき、改善方策の策定が具体的に可能となります。フォーマットにある表に各種数値を記入し、データとして分析して具体的な目標値を設定すると、問題解決までの道のりも立てやすいですね。

＜模範例＞（理工学部45ページ「8 教員組織」より抜粋）

（改善方策）…教員不足はますます深刻化する。これに対処するためには、一刻も早く教員数を152名から適正数（165名以上）に増やす必要がある。

＜模範例＞（情報コミュニケーション学部45ペー

ジ「8 教員組織」より抜粋）

（問題点）40代の占める割合が高く、20年後の高齢化が懸念される。

（改善方策）今後の教員採用時には、30代・20代の教員の採用割合を高める。

### ●じこてんちゃんのコメント●

必要な教員の数・年齢層を明示することで、今後具体的に採用計画を立てることができますね。



## ★コツ6★NGワードを使わない!

目的・目標や改善方策についてはいくつかのNGワードがあります。

ひとつは、「あいまいな表現」です。表現があいまいだと、点検・評価ができないため目的・目標や改善方策の記述には適切ではありません。

もうひとつは目的(達成すべき状態)と手段(達成方法)を混同した言葉の使い方です。たとえば以下の表現は「目的」でなく、「手段」を示していることもあるので、記述の際は注意してください。

＜注意を要する語句＞

・充実させる ・向上させる ・展開する ・検討する ・必要がある ・整備する など。

ではどのようにすれば適切な表現といえるのでしょうか？答えは、コツ3にあるように、「具体的にしめすこと」。「誰の(対象)、どのような問題を(現状)、どのような状況に(目標・達成度)どのようにして(手段)実現するのか」を明記するとよいでしょう。

＜模範例＞(法学部19ページ、「4学生の受け入れ」より抜粋)

(改善方策)・・・生涯教育・社会人教育の活性化の観点から、2010年度入試から中高年を対象とした

社会人特別入試(マスターズ入試)を実施する予定である。これによって二部教育の廃止後に激減した社会人の受入れ状況の改善が期待される。…

●じこてんちゃんのコメント●

⇒実施時期・対象・到達点・改善される事柄など具体的、かつ端的にまとめられていますね。

＜模範例＞(商学部34ページ、「6 研究環境」より抜粋)

(改善方策)・・・商学研究所の位置づけを、「学内の共同研究」と「地域連携」の拠点として明確化し、学部内の教員による研究会を年2回程度開催する。

●じこてんちゃんのコメント●

⇒ポジションを明確化することで組織の役割がはっきりします。研究会の実績を新たな改善につなげていけますね。



## おわりに 一きっといつもしてること

ここまで6つの自己点検の記述のコツをあげてきました。

自己点検・評価報告の作成は、そのボリュームを想像しただけでうんざりしてしまい、つい「作文」になってしまうということはありませんか？でも、点検項目を書き起こしてみると、問題点だけでなく、「去年はこんな課題が解決できたんだ」「目標にここまで近づいたね」という達成部分も具体的に把握できると思います。また、少し視点を変えてみると、みなさんが毎日の業務で行っていることは、本学がよりよい大学であるための、「改善方策」であることがたくさんあるのではないのでしょうか？

ここにご紹介した書き方のコツをご参考に、日々の業務改善の1年分の集大成を自己点検・評価報告書にまとめ、具体的な改善に生かしていただければ幸いです。

一緒に  
がんばりま  
しょう♪



# ★Topic★ 日本のじこてん、世界のじこてん

## その1：他大学の取組(計画・評価)を見てみよう

各大学ともPDCAサイクルの構築・見直しのためにいろいろ工夫を凝らした自己点検・評価を行っています。以下に特色のあるいくつかの大学の自己点検・評価に関するWebページのURLを掲載しますので、ご覧ください。

### 【九州大学】

#### 一 明確な計画(責任者, 目標, 数値)

国立大学法人化に伴い、自己点検評価をベースとして教育の質保証と法人の質向上を以下に機能させるかをスタート地点として自己点検評価に取り組み始めた九州大学。客観的な現状分析をもとに、ミッション・ビジョンを明確化し、ビジョンと現実のギャップを埋める方策を「戦略」として実行する。この一連の流れを「QUEST-MAP(九州大学戦略マップ)」として全学で共有し、PDCAサイクルを構築しています。

全学で共有できるミッション・ビジョンの策定は困難を極め、長い時間がかかったとのこと。明快な目標に基づくロードマップの作成という手法は、自己点検の良いお手本です。

<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/hyoka-home/>



九州大学  
大学評価  
ホームページ

### 【関西学院大学】

#### 一 データベース情報と目標のリンク

1994年から「関西学院大学白書」を発行しており、自己点検・評価については本学より長い経験を持っている関西学院大学。こちらは「データ(数値)に基づいた自己点検」を行っているという特長があります。たとえば、評価項目ごとの指標に関するデータをウェブ上で見られる「関西学院評価指標データベース」を(社)日本能率協会と共同で開発していますし、大学基礎データはWebで公開しています。2008年度からは数量データで測りやすい「学生の受け入れ」「国際交流」「学生生活」「教員組織」「図

書館」「財務」の6項目について、定量的評価を行っています。(サンプルページが閲覧できます)データを根拠にして問題点を分析する手法は、作文に頼らない自己点検・評価が可能となり、大変参考になります。

[http://www.kwansei.ac.jp/Contents\\_5486\\_0\\_0\\_43\\_15.html](http://www.kwansei.ac.jp/Contents_5486_0_0_43_15.html)



関西学院大学  
大学評価関連  
ホームページ

### 【法政大学】

#### 一 最も重要な、卒業生からの評価

全学的な自己点検・評価報告書の作成は評価対象年度だけですが、作成の際は担当理事がトップとなり、集中的に作成しています。全学規模の卒業生アンケートを実施しており、興味深い結果が公表されています。また、自己点検・評価ニュースレターもアップされています。

[http://www.hosei.ac.jp/hyoka/tenken/daigaku\\_hyoka\\_shitsu.html](http://www.hosei.ac.jp/hyoka/tenken/daigaku_hyoka_shitsu.html)



法政大学  
大学評価室  
ホームページ

## その2:文科省がヒアリングに来校されました。

去る6月26日、文部科学省が認証評価等にかかわる意見の聞き取り調査に来校されました。メンバーは高等教育局高等教育企画課課長補佐の井上氏、企画係長の山本氏です。

ヒアリングの目的は、自己点検・評価や認証評価の結果の学内への周知方法や学内への周知方法、実施に当たっての問題点や事務負担についての調査です。本学側は外池学長室専門員、教学企画事務室山本・松永が出席して、質疑応答形式で進行了ました。

文科省側からは、改善アクションプランが認証評価の活用事例として興味深い。また、本紙(「じこてん」)もユニークであるとのご意見を頂きました。本学側からは現在の認証評価の課題点として①自己評価に

適した評価項目の検討(認証評価の視点は自己評価に適したものではない場合がある)②“質”の判断基準のあいまいさ(例えば制度、活動状況、結果のいずれに重点を置くべきか)③目標設定の難しさ(本来項目別に設定すべき目標を、いくつかまとめて大括りにさせる目標設定は難しい)④改善事例への褒賞(モチベーション向上の工夫が必要)などの回答をしました。

今回のヒアリングは本学のほか、法政大学、日本女子大学、千葉大学など首都圏中心に10大学程度実施とのこと。ヒアリングの結果は中央教育審議会の質保証専門部会等の審議にて活用することを検討されているそうです。

## その3:高麗大学(韓国)と合同研修を行いました。

去る7月15日、韓国ソウル市にある高麗大学の一行が来校されました。高麗大学は本学の協定校でもあり、現大統領李明博氏の出身校でもある、名門校です。メンバーは企画予算処 企画評価チームのOH YOON SE企画課長、HONG JUN SUK企画課長、KANG MAN SIK氏、JUNG HYUN MIN氏の4名です。本学からは、教学企画事務室の山本・住吉・松永が参加し、アカデミーコモンの教室にて、事前に高麗大学から寄せられた質問を受ける形で進行了ました。

主な研修テーマは、以下の6点でした。

- ①両大学の現況と日韓の高等教育の現況
- ②本学の長期経営計画(教育研究、施設、財政等)の設計及び運用管理プロセス
- ③日韓の大学評価の現況(自己点検・評価、認証評価、世界ランキングへの対応)
- ④政府による財政支援と評価の活用
- ⑤外部研究費の導入と研究評価
- ⑥自己点検・評価と意思決定プロセス

国の制度は異なるものの、自己点検・評価のプロセスについてや、PDCAサイクルの構築に関する意見交換は大変有意義なものでした。

韓国の大学も日本と同様に認証評価を受けること

が義務付けられており、政府は評価とリンクした財政支援を行っています。また、韓国の大学進学率は84%(2008年度)と世界最高レベルです。受験生獲得競争は激しく、常に大学のセールスポイントを世間にアピールしなければなりません。このため特に私立大学は自己改革のための大学評価、サバイバル戦略としての大学評価に熱心に取り組んでいるとのこと。

外部評価を意識し、内部からの自発的な改革を行うための自己点検・評価は、大学間競争が避けられない今日、必要不可欠なことであることを再認識する研修会となりました。



研修の様様。熱心なやりとりが繰り返されました。

## 第1回自己点検・評価 全学委員会が開催されました。

去る7月29日に、2009年度第1回の自己点検・評価全学委員会が開催されました。各機関にご作成いただいた「自己点検・評価報告書」と、学長スタッフを中心に作成した大学全体に関わる部分の自己点検・評価(全学報告書)をあわせたものを提示し、報告書の構成について承認しました。今後は全学委員会委員によるコメントを作成⇒学長による改善方針などを学長スタッフにおいて検討⇒2008年度報告書を取りまとめ、第2回全学委員会にて再度検討といったステップを踏み、完成版を作成します。

## 大学評価基準が変わります。

本年10月に大学基準が改定されました。これに伴い評価基準・評価項目が大幅に変わることになります。これによる新たな認証評価のプロセスは、2011年度から適応されますが、本学は、2014年度に予定されている二回目の認証評価に備えるためにも新たな評価項目にあわせた移行が必要になります。負担の軽減が、この改定の目的の一つとされ、基準や評価項目は減ることになりますが、項目の組み換えや、新たな視点の追加もありますので、事務局では、できる限りスムーズな移行プロセスを現在検討しています。詳しくは次号に掲載する予定です。

## 編集後記

今号は皆さんにご提出いただいた2008年度自己点検・評価報告書の中から「お手本」を紹介しよう！という企画をメインに編集しました。

自身の記憶をたどってみると、自己点検・評価報告書の作成は事務仕事としか思えず、年度末の忙しい時期に文句たらたらで案を作っていました(当時の担当者さんごめんなさい)。しかし、よく読んでみると、各部署がより良い大学になるためにそれぞれの目標を設定し、そこに向かって改善策を積み上げていくというプロセスが見える様子は一大プロジェクトのよう

です。年に1度、プロジェクトの主演になったつもりで、今後も自己点検・評価の作成をよろしく願いいたします。

自己点検・評価報告書の作成については今後も引き続き説明会等を行っていく予定です。この広報紙や、説明会で取り上げてほしい内容がありましたら、編集部までお知らせください。お待ちしております。

右はじこてんちゃんの弟、じこてんくんです。

よろしく  
お願い  
します☆



### じこてん

2009年10月30日発行

明治大学 教学企画部 教学企画事務室

編集担当：外池(学長室専門員)、住吉、松永、山本

東京都千代田区神田駿河台1-1

大学会館8階

電話：03(3296)4271

FAX：03(3296)4353

Email: gakucho@mics.meiji.ac.jp

URL <http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/index.html>